

『仮定法』の理解をさまたげる「過去形」という言葉の呪縛

英語の動詞の「過去形」は 単なる「過去」ではない？

ズバリ、英語における「過去形」は

距離感

距離感 には大きく分けて 3 つの種類

- ① 時間的 な距離 …本来の過去としての意味を表す
- ② 心理的 な距離 …ていねい語的に 使われる
- ③ 現実的 な距離 …「今現在の事実・状態」と「願望・理想・可能」との隔^{へだ}たりを表す

この③の「現実」と「願望・理想…」との距離感を表しているのが

『仮定法』という用法

仮定としての意味「仮に～だったら…」

「実際には違うんだけど、もし～だったら…」

If I **had** time, I **would** go shopping with you. (時間があれば、あなたと一緒に買い物に行くのに)

⇒ 時間がない「現実」と 行きたい「願望」 との距離感

If it **were** sunny today, we **could** play baseball outside. (晴れてたら、外で野球出来るのに)

⇒ 晴れていない「現実」と 外で野球が「出来る可能性」 との距離感

I wish I **had** more money. (もっとたくさんお金を持ってればなあ)

⇒ あまりお金を持っていない「現実」と 持っている「理想」 との距離感

①は 本来の過去としての意味 →これまでに習ってきた「過去時制のことがら」を表す

②は ていねい表現として

ちょっと気を使う相手、少し遠慮する気持ち、ストレートに言うのはちょっと… な時
やわらかな距離感を持たせるのにぴったり

Could you open the window? (窓をあけてもらえますか)

I **would** like you to do this work. (この仕事してもらいたいんだけど)

以上

「過去に起こったこと」を表すのが過去形 という概念

その思い込みをいったん頭からアンインストール

英語の動詞の「過去形」は「距離感」 をコアイメージとして仮定法に立ち向かいましょう

元記事はこちら→

